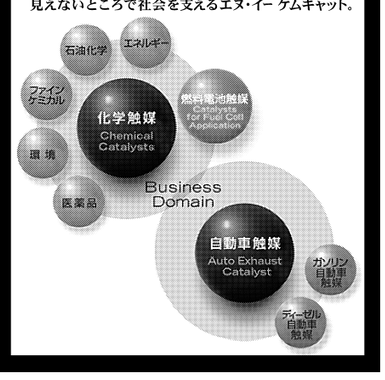
ユニークな先端技術でワールドワイドなニーズにこたえています。
●ニッケル系触媒
●オゾン分解触媒
●VOC分解触媒
●銅系触媒
●脱硝触媒
●ダイオキシン分解触媒
●ポリエステル重合触媒
●チタニア触媒及び担体
●自動車触媒用担体
●カスタマー触媒
●光触媒
●各種触媒の受託生産
SAKAI CHEMICAL
堺化学工業株式会社
●営業(東京)03-5823-3721 ●営業(大阪)072-223-4155 ●本社 072-223-4111
http://www.sakai-chem.co.jp

N.E. CHEMCAT
「できたらいいな」を“化学”でプロデュース。
見えないところで社会を支えるエヌ・イー ケムキャット。


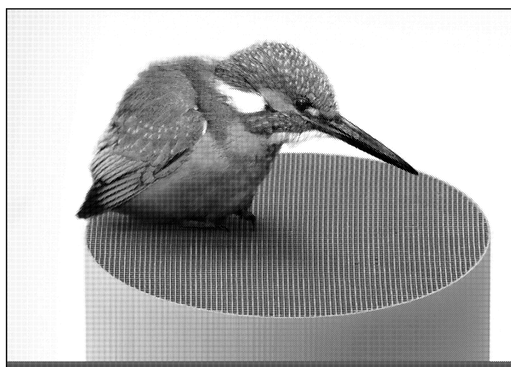
エヌ・イー ケムキャット株式会社
〒105-6124
東京都港区浜松町
2丁目4番1号
世界貿易センタービル24F
TEL：03-3435-5490
FAX：03-3435-5484
www.ne-chemcat.co.jp

第一稀元素化学工業株式会社
代表取締役社長　井上　剛
〒559-0025　大阪府大阪市住之江区平林南1-6-38
http://www.dkkk.co.jp/

日本化薬株式会社
代表取締役社長　鈴木　政信
〒100-0005　東京都千代田区丸の内2-1-1
http://www.nipponkayaku.co.jp/

TechnoAmenity　～私たちはテクノロジーをもって人と社会に豊かさと快適さを提供します～

1970年、他にはない技術でアクリル酸を工業化。効率のよい触媒は、世界の有力メーカーに採用されています。
火力発電所から出る窒素酸化物を除去する脱硝触媒など、触媒技術を通して環境保全に貢献しています。
紙おむつに使われる高吸水性樹脂。その保水力を砂漠の緑化に活かすプロジェクトに取り組んでいます。
クリーンに発電する燃料電池。その中心部材であるジルコニアシートには、触媒づくりの技術が活きています。
株式会社日本触媒　大阪本社　〒541-0043　大阪府大阪市中央区高麗橋4−1−1　興銀ビル
東京本社　〒100-0011　東京都千代田区内幸町1−2−2　日比谷ダイビル
日本触媒　検索
日本触媒


空気より、もっときれいな空気を。
その想いから生まれた触媒です。
触媒で地球とクルマをつなぐ
CATALER
株式会社キャタラー　本社・工場　〒437-1492 静岡県掛川市千浜7800番地
東京営業所　〒101-0032 東京都千代田区岩本町2丁目12番2号第2早川ビル
http://www.cataler.co.jp

触媒工業協会創立50周年

変革期迎える日本の触媒工業

触媒工業協会事務局長　岩田　泰夫

触媒は化学反応を促進させる機能性材料・機能性製品であり、化学工業をはじめとする各産業において物質の合成、エネルギー、環境など応用分野で利用され、重要な役割を果たしている。近年は環境分野においての伸長がめざましい。多方面にわたる用途先産業において、触媒がますます大きな役割を果たしていくことが期待される。

環境分野、新興市場に注力

触媒工業は化学工業、石油化学工業、環境保全などの産業とともに発展している。

2014年の触媒工業の生産量は前年比5%増の約9万7100トン、出荷量は同6%増の約9万6000トン、出荷金額は同10%増の約3333億円であった。

生産量は3年連続で10万トンを割り、出荷量は5年連続で10万トンを割った。しかし前年割れが続いた13年から一転して生産量・出荷量・出荷金額の全てが前年を上回った。内訳として、工業用は最大用途用の石油精製用、石油化学品製造用、高分子重合用がいずれも前年を上回った。一方の環境保全用は、その他環境保全用が前年割れしたものの、自動車排ガス浄化用が出荷金額で前年を大きく超えたため、触媒合計でも前年を超えることとなった。

14年の触媒分類別の主な動向としては、①最大用途の石油精製用触媒は、出荷量で約41万3000トン（前年比9%増）、出荷金額で約254億円（同17%増）となり、出荷量・金額は前年を大きく超えた。経済産業省の資源・エネルギー庁の統計によると、14年の燃料油生産量は約1億7963万キロリットル（前年比4%減）、ガソリン生産量は約5354万キロリットル（同1%減）であった。燃料油の生産量は05年をピークとしておおむね減少傾向にある。

②自動車排ガス浄化用触媒は、出荷量で約41万1600トン（前年比2%減）、出荷金額で約2027億円（同12%増）であった。日本自動車工業会の統計によると、14年の国内の4輪車生産台数は、約977万台（前年比2%増）となり、13年前半に円安に転じた影響が反映される年となった。

③石油化学製品製造用触媒は、出荷量で約1万8300トン（前年比13%増）、出荷金額で約632億円（同11%増）であった。出荷金額ではリーマン・ショック後の11年にある程度回復したものの、その後は小幅な動きとなっている。

④高分子重合用触媒は、出荷量で約1万2900トン（前年比5%増）、出荷金額で約216億円（同5%増）であった。

⑤その他環境保全用触媒は出荷量で約9100トン（前年比9%減）、出荷金額で約172億円（同6%減）となり、2年連続で減少した。中心となる脱硝触媒に対する需要が弱まっているためだ。

一方、14年の輸出については数量で約5万4600トン（前年比9%増）、金額で約1260億円（同12%増）であり、前年と比べて数量・金額ともに大きく増加した。輸入については、数量で約2万8000トン（前年比7%減）、金額で約460億円（同1%増）であり、前年と比べて数量は減少したが、金額はわずかに増加した。

触媒の需給動向を推定すると14年の国内需要は、前年と比べて数量で横ばい、金額は前年比8%増であった。

触媒が本質的に持つ〝触媒力〟は化学工業などに不可欠であり、触媒工業は新興市場の工業分野、環境保全分野等にもさらに注力していくことが予想される。〝水素社会〟などでも生産、輸送、消費のあらゆる面において触媒に関わる要素も大きい。環境・新エネルギー分野などにおいて、触媒技術への期待が高まる。

2014年 年間触媒生産・出荷統計（補正版）　（単位：数量 トン、金額：百万円）

区分		項目	2013	2014	前年比
触媒合計		生産量	92,675	97,098	105
		出荷量	90,706	95,971	106
		出荷金額	302,209	333,273	110
工業用	工業用合計	生産量	71,661	77,178	108
		出荷量	68,834	75,212	109
		出荷金額	102,508	113,332	111
	石油精製用計	生産量	38,811	42,977	111
		出荷量	39,457	43,046	109
		出荷金額	21,744	25,407	117
	石油化学品製造用	生産量	19,471	19,724	101
		出荷量	16,184	18,342	113
		出荷金額	56,982	63,175	111
	高分子重合用	生産量	12,401	13,541	109
		出荷量	12,295	12,936	105
		出荷金額	20,561	21,596	105
	油脂加工・医薬・食品製造用その他の工業用（無機・雰囲気ガスなど）	生産量	978	936	96
		出荷量	898	888	99
		出荷金額	3,221	3,155	98
環境保全用	環境保全用合計	生産量	21,014	19,920	95
		出荷量	21,872	20,759	95
		出荷金額	199,701	219,941	110
	自動車排気ガス浄化用	生産量	10,969	10,703	98
		出荷量	11,871	11,611	98
		出荷金額	181,440	202,701	112
	その他の環境保全用	生産量	10,045	9,217	92
		出荷量	10,001	9,148	91
		出荷金額	18,261	17,241	94

（経済産業省：生産動態統計年報）

ごあいさつ

水素社会、市場拡大に期待

触媒工業協会会長
市石　知史

触媒工業協会は1965年にわが国で触媒および触媒関連原料メーカー、並びにそれらの販売に関わる企業の連携、協調、親睦を図り、健全な触媒工業の発展を促進する目的で設立されました。当初13社で発足いたしましたが、現在は会員数50社と大きく発展しております。

当協会の発展は、日本の工業の発展に伴って進んできたものであり、今までの先輩方のご苦労を想像いたしますと50周年の歴史は大変感慨深いものであります。

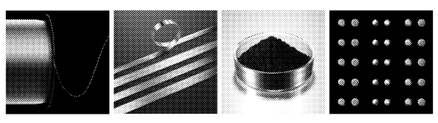
エネファームの販売が2014年で累積10万台に達し、トヨタ自動車に続き、ホンダも本年度に燃料電池自動車の発売を予定している状況に見られるように、政府が推進する「環境」「新エネルギー」をキーワードとする水素社会も少しずつ現実のものになっているように感じます。

そして水素社会では多くの新触媒のビジネスチャンスがあります。燃料電池用触媒、水素製造のための改質触媒や光触媒、水素の輸送や貯蔵に用いる有機ケミカルハイドライド法に使われる触媒など、新しい触媒市場の広がりに対して、当協会としても大変期待しております。

日本の触媒工業は石油精製用触媒、石油化学品製造用触媒、自動車排ガス浄化用触媒の3本柱を中心に発展して参りました。しかし、中国をはじめとしたアジア諸国の台頭もあり、08年のリーマン・ショック以来低迷している状況です。しかしながら、日本企業の得意とする高効率化、高付加価値の追求に加え、規模の拡大などにより打開できると考えております。

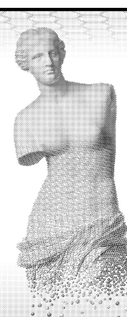
水素社会をより発展させるために、それぞれのメーカーは過当競争をするのではなく、水素社会がもたらす市場をいかに大きくするかを考え、健全な競争の中、互いに切磋琢磨（せっさたくま）することが大事な時期ではないかと思います。当協会としては業界の先頭にたって、水素社会の発展に貢献したいと考えております。

当協会は創立50周年を迎えたのを契機に、協会の求心力を高め、また会員相互の確実な信頼関係を築く目的で一般社団法人に移行しました。今後は日本の触媒工業のさらなる発展に寄与していきたいと考えております。

新しい時代を生みだすテクノロジーのそばに。
私たち田中貴金属グループは、1885年（明治18年）の創業以来、
貴金属のプロフェッショナルとして、その新しい価値と可能性を追い求めてきました。
自動車、半導体、ホームエレクトロニクス、新エネルギー、メディカル、環境&インフラ。
貴金属が求められる領域すべてに応え、お客様のよきパートナーになること。
そしてよりよい社会、よりよい未来の創出に貢献すること。
新しい時代を生みだすテクノロジーのそばに、いつも私たちがいます。

グローバルトップシェア製品
世界でいちばん貴金属を考える会社です。田中貴金属グループ
TANAKA
TANAKAホールディングス株式会社　〒100-6422　東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング22階　http://pro.tanaka.co.jp/

クラリアント触媒株式会社
代表取締役社長　三成　紀夫
〒113-0021　東京都文京区本駒込2-28-8
http://www.clariant-catalysts.co.jp/

日本ケッチェン株式会社
代表取締役社長　遠北　正和
〒105-6791 東京都港区芝浦1-2-1
http://www.nippon-ketjen.co.jp/


独自の超微粒子調製技術を持つ、日揮触媒化成。
“微は、美”をモットーに、世界中のお客様へ、
先進のナノテクノロジーと多彩な機能材料をご提供しています。
日揮グループ JGC C&C
微は、美。
主な製品
1.触媒事業
・FCC触媒、水素化プロセス用（精製・処理・分解）触媒
・石油化学用触媒、水素化用触媒、ガス変性用触媒、触媒担体、ゼオライト
2.環境・新エネルギー事業
・排煙脱硝触媒、自動車排ガス処理材料、消臭・抗菌材料、VOC吸着・分解触媒
・色素増感型太陽電池材料、リチウムイオン二次電池用部材、燃料電池用触媒
3.ファイン事業
・情報・電子材料、光学材料、化粧品材料、生活関連材料、コロイド材料
日揮触媒化成株式会社
JGC Catalysts and Chemicals Ltd.
本社　〒212-0013 神奈川県川崎市幸区堀川町580番地 ソリッドスクエア東館16F
TEL：044-556-9137（総務部）　FAX：044-556-9127
http://www.jgccc.com

あそこにも触媒技術が生かされているんだね
取扱品目
◆水素化分解触媒
◆接触改質触媒
◆脱硫触媒
◆スイートニング触媒
◆脱水素触媒
◆異性化触媒
◆選択水素化触媒
◆選択酸化触媒
◆各種（個体）吸着剤
◆アルキレーション触媒
◆排ガス浄化用酸化脱臭触媒
◆家電用脱臭触媒
◆アンモニア分解触媒
◆オゾン分解触媒
◆過酸化水素分解触媒
◆燃料電池用触媒
◆カスタム触媒
◆ゼオライト触媒
◆殺菌酵素フィルタ
日揮ユニバーサルは、触媒技術を通じて無限の可能性を追求します
日揮ユニバーサル株式会社
本社：〒141-8563 東京都品川区大崎1丁目6番3号（日精ビル）
電話 03-5436-8413(代表)　FAX 03-5436-8388
http://www.n-u.co.jp/